

---

## ハイチでのコレラ流行に対する医療支援活動の報告

(朴 範子ほか、日本集団災害医学会誌 18: 2-39, 2013)

2013年11月22日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

---

大地震の影響から復興の途にあったハイチ共和国で、2010年10月22日、コレラ患者の発生が宣言され、以後急速にコレラが全国に蔓延した。著者らは12月7日から17日までハイチ共和国ニップ県フォンデネグ市にある病院のコレラ隔離病室にて診療支援を行っており、この期間に57名のコレラ患者の新入院があった。ハイチでのコレラ流行の背景と、著者らの現地での活動についての報告である。

### ・ハイチでのコレラ流行の状況

ハイチでは、震災前から多くの国際機関や国際NGOが援助活動を行っており、10月19日にアルティボニット県サンマルク市で大量の急性下痢患者が発生した段階でアメリカ合衆国の米国疾病予防管理センター、PAHO/WHOなどが対応にあたっていたが、コレラの流行は11月20日には10の県すべてに拡大した。12月6日には、コレラのために医療機関を訪れた患者数は97,595例となり、うち死亡者は2,193例で全体の死亡率は2.2%であった。このうち、入院症例は46,749例であり、入院症例の死亡率は3.2%であった。重症例の入院と入院後の適切な治療の欠如を疑わせる数字となっている。

### ・コレラ流行に対する AMDA の医療支援活動

特定非営利活動法人アムダ(AMDA)は、首都ポルトープランスに義足制作工房を設けて震災被害者に無償で義足提供を行っており、活動に従事するAMDAの調整員が現地に滞在していたため、コレラ流行の初期から情報収集が可能であり、それが医療チーム派遣の決定につながった。12月2日に医療チームがハイチ入りして情報収集を行い、12月7日から12月31日までニップ県フォンデネグ市のキリスト教救世軍が運営するBethel Clinicで診療支援を行うことになった。12月7日から17日までは医師3名、看護師3名、調整員3名が滞在、12月18日から31日までは次のチームの看護師1名と調整員1名が引き継いで診療支援を行った。

Bethel Clinicは入院ベッド数28床で5名の医師が診療にあたっている。この病院に11月15日に最初のコレラ患者が2名来院し、以後急性下痢・嘔吐の患者に対してはコレラと臨床的診断し、入院症例は急遽設営した6名収容可能なコレラ隔離病室に収容していた。11月15日から12月7日までの22日間に入院したコレラ患者は16名で、著者らが到着した12月7日にはうち6名が入院しており、コレラ隔離病室は満床であった。次第に患者数が増加したため、もう1つの隔離病室が設置され、12月8日から17日の12日間に57名の新たなコレラ患者の入院があった。著者らの到着前22日間の来院数が16名であったのと比較しても急激に患者数が増加しており、今後の流行の拡大が懸念された。患者と世話をする家族に対しては、汚物の処理や手袋の使用、ゴミの処理、消毒用の塩素漂白剤の調整方法について注意喚起や指導を行った。

### ・ハイチにおけるコレラ流行拡大の原因

現在、世界は1961年にインドネシアに始まった第7次コレラ世界的流行のさなかにある。2009年には全世界45か国から死亡例4,946例を含む221,226症例が報告された。この報告と比較しても、今回のハイチにおける流行のインパクトの大きさが伺える。ハイチでこれほどコレラが蔓延したのはハイチの医療従事者のコレラに対する認識の低さ、ハイチ国民がコレラに対して免疫をもたなかったこと、震災の影響により密集した不潔な環境でテント生活を営む人が多くいること、安全な飲料水とトイレなどの適切な衛生環境が十分でないことが挙げられている。